

# 子供らへ 政権の姿よく見て

医師

(埼玉県 50)

私には、中学生と高校生の男の子がいます。ニュースを見ながら子供たちに話します。今こそ目を見開いて、日本の政府や自公政権の本当の姿をしっかりと見ておくように、と。

安保法案が誰のためのものなのか。なぜ多くの人の反対を押し切って、無理やり法案を通そうとしたのか。法案を夏までに通すと約束した相手は誰なのか。安倍晋三首相が4月に米国議会で安保法案を「この夏までに、成就させる」と演説した意味を、子供に伝え考えさせたいのです。

また、沖縄で住民の声を

聞かずに米軍基地の移設を強行しようとするのはなぜか。沖縄県民を危険にさらし、シユゴンにいる海を埋め立てて自然を破壊してまで、誰との約束を守ろうとするのか。

災害被害で生活再建に奔

走している国民を尻目に、何を急いでいるのか。この政府は本当に国民を守る意思があるのか。日本の政治は誰のものか。

上の子は来年18歳。18歳選挙権の第一世代です。

「自分たちの手で、自分たちのための政治を行っていくための政治家を選びなさい」と話したいと思えます。

## 参院選 法案反対の受け皿を

主婦

(徳島県 52)

安保法案の成り行きに、いてもたってもいられず投稿した。体調が悪くデモなどに行けない代わりに、意思を伝えたくったからだ。

衆院憲法審査会で法案を「違憲」と指摘した小林節・慶大名誉教授は、15日の中央公聴会で「次の参院選、最終的には衆院選で国民が賢い判断をすると思ってい」と述べた。元最高裁判事の浜田邦夫氏も、「国民が審判を下す」と話した。私も賛同したい。

15日付の本紙世論調査によると、安保法案反対が54%で、賛成29%を大きく上回っている。だが

支持政党となると、自民が36%

公明が3%。与党が39%なのに、法案に反対する野党は、合わせても17%にしかない。法案の是非と、支持する政党は別の問題のようだ。このままでは、いくら選挙をしても自公が勝つだろう。

ならば「支持政党なし」の37%の人々が一票を投じることの出来る、大きな受け皿を作るしかないのではないか。死票が出ないよう安保法制反対の一点で手をつないでいる野党が、選挙区でも協力して受け皿を作ってくれば、「国民の賢い判断」は無駄にならないだろう。来年の参院選、野党の腹をくくった共闘を強く希望する。

9/19 朝日

9/19 日

# 戦後70年 安保法制が総括か

無職

(兵庫県 87)

「両陛下 戦地慰霊の旅 尽きない思いを知り 我が心同行する」

4月に天皇、皇后両陛下が西太平洋のパラオ・ペリリュー島へ慰霊された時に書いた私の日記である。戦争を知らない人たちも、両陛下慰霊に伴う報道で、かつての激戦地であったことを知っただろう。私も海軍志願兵として過ごした、戦時中の日本での軍隊生活を思い出した。

敗戦後の日本人は、自分たちが拍手喝采で協力し続けた戦争の結果を嘆きながら、衣食住に追われた。戦争の真相など知る

よしもなく、それぞれの傷をただなめ続けた。振り返ると、戦後10年ほどは、戦争の相手になんな被害も苦しみを与えたか考える余裕もなかった。また、子孫に対して戦争を正しく伝える暇も意思も持たなかったように感じる。

明治以降、富国強兵策で突き進み、およそ75年後に敗戦。そして、戦後70年を迎えた私たち。今こそ日本の歴史を振り返り、過去に学び、比較勉強する絶好の機会に思える。新たな安全保障法制による安全保障強化策が、戦後70年に最もふさわしい結論なのか。日本人の総意なのか。あと10年かけて考えてもいいはずだと思う。

## 法案通っても声は止まらぬ

無職

(大阪府 71)

安保法案に反対するためできる限りデモに参加しています。今、普通の人々が誰に言われたわけでもなく、何か組織に入っているわけでもなく、声を上げています。

私は38年間の小学校教員生活で、民主的な教育を心がけたつもりですが、今の社会を見て落ち込んだこともありました。しかし、学生グループ「SEALDs」、10〜40代が中心の「SADL」、子育て世代が中心の「ママの会」が声をあげるのを見て、個人の自由を尊重する感覚が育っているのを実感します。

一昨年、特定秘密保護法が成立し、戦前の治安維持法と同じ状況になるのではないかと心配でした。戦争体験者は、当時、いつの間にか物が言えなくなっていたと言います。けれども今は戦前と同じではありません。みんな黙ってはいない。

安保法案賛成集会をインターネットで見ました。法案の理解の仕方は違いますが、彼らも戦争ではなく平和を望んでいるのです。それなら理解しあえば、ともに声をあげられるでしょう。平和は力で作る事ができません。「戦争法案」が通ったところで、私たちの声を止めることは出来ません。